



## 設定オプション

Cisco Prime Network Registrar DHCP、権威 DNS、およびキャッシング DNS コンポーネントは、リージョナルサーバからライセンスおよび管理されます。リージョナルサーバが必要で、ローカルクラスタ内のすべてのサービスは、リージョナルクラスタを介してライセンスされます。ライセンスファイルを要求するのはリージョナルのインストールのみで、リージョナルサーバのみが新しいライセンスファイルを受け入れます。次に、リージョナルサーバは、使用可能なライセンスに基づいて個々のローカルクラスタを承認できます。

この章で示す構成例は、次の項で説明する一般的な使用例に基づいています。

- [DHCP と DNS の混合シナリオ \(1 ページ\)](#)
- [DHCP のみのシナリオ \(3 ページ\)](#)
- [DNS のみのシナリオ \(3 ページ\)](#)

## DHCP と DNS の混合シナリオ

さまざまな数のマシンで DHCP と DNS の混合構成用に Cisco Prime Network Registrar をセットアップできます。

### 1 台のマシンの混合コンフィギュレーション

1 台のマシンで DHCP サーバと権威 DNS サーバの両方を設定します。最初にサーバをプライマリとして有効にし、TFTP サーバと SNMP トラップを無効にします。次に、少なくとも 1 つの正引きゾーンおよび対応する逆引きゾーン、および少なくとも 1 つの範囲を設定します。

1 台のマシンで DHCP サーバとキャッシング DNS サーバの両方を設定します。最初にサーバをプライマリとして有効にし、TFTP サーバと SNMP トラップを無効にします。次に、フォワーダと例外リストを設定できます。

### 2 台のマシンの混合コンフィギュレーション

2 台のマシンの混合 DHCP コンフィギュレーションには、いくつかの選択肢があります。

- 1 台のマシンをプライマリ DHCP サーバおよび権威 DNS サーバとして設定し、2 台目のマシンをセカンダリ権威 DNS サーバとして設定します。次に、最初のマシンでゾーン配信と DNS アクセスコントロールを設定し、オプションで2 台目のマシンにアクセスコントロールを設定します。
- 1 台のマシンを DHCP および権威 DNS メイン サーバとして設定し、2 台目のマシンを DHCP および権威 DNS バックアップ サーバとして設定します。バックアップマシンで最小限の設定（パスワードの変更、DHCP および権威 DNS のイネーブル化、およびパートナーバックアップロールの選択）を行います。メインマシンでサーバペアを作成し、バックアップマシンとの同期をスケジューリングして、設定を作成します。
- 1 台のマシンを DHCP サーバとして設定し、2 台目のマシンを権威 DNS プライマリとして設定します。そして次に、一方のマシンに DNS 更新を設定してから構成をもう一方のマシンにプッシュします。
- DHCP サーバおよび権威 DNS サーバを持つ1 台のマシンを設定し、2 台目のマシンをフォワーダとして権威 DNS サーバを持つキャッシング DNS サーバとして設定します。

## 3 台のマシンの混合コンフィギュレーション

3 台のマシンの混合コンフィギュレーションには、いくつかの選択肢があります。

- 1 台のマシンを DHCP サーバ、2 台目のマシンを権威 DNS プライマリ、3 台目のマシンを権威 DNS セカンダリとして設定します。オプションで、マシンに再度アクセスして、DHCP メインを権威 DNS バックアップ、権威 DNS メインを DHCP バックアップにします。
- 1 台のマシンを DHCP フェールオーバーおよび権威 DNS 高可用性 (HA) メイン サーバ、2 台目のマシンを DHCP フェールオーバーおよび権威 DNS HA バックアップ サーバ、3 台目のマシンを権威 DNS セカンダリサーバとして設定します。
- 1 台のマシンを DHCP サーバ、2 台目のマシンを権威 DNS サーバ、3 台目のマシンをフォワーダとして権威 DNS を持つキャッシング DNS として設定します。
- 1 台のマシンを DHCP プライマリ サーバおよび権威 DNS プライマリ、2 台目のマシンを DHCP セカンダリおよび権威 DNS セカンダリサーバ、3 台目のマシンをフォワーダとして最初のマシンのプライマリ権威 DNS を持つキャッシング DNS として設定します。

## 4 台のマシンの混合コンフィギュレーション

4 台のマシンの混合構成は、次のようにすることができます。

- DHCP と権威 DNS のメインとバックアップのペア。最初のマシンを DHCP メイン、2 台目のマシンを DHCP バックアップ、3 台目のマシンを DNS 更新が設定された権威 DNS メイン、4 台目のマシンを権威 DNS バックアップとして設定します。

- 3 台のマシンのシナリオに追加。最初のマシンを DHCP メイン、2 台目のマシンを権威 DNS メイン、3 台目のマシンを DHCP および権威 DNS バックアップ、4 台目のマシンを権威 DNS セカンダリとして設定します。
- 最初のマシンを DHCP メイン、2 台目のマシンを DHCP バックアップ、3 台目のマシンを権威 DNS、4 台目のマシンをフォワーダとして権威 DNS を持つキャッシング DNS として設定します。

## DHCP のみのシナリオ

DHCP のみの構成は、1 台または 2 台のマシンで可能です。

### 1 台のマシンの DHCP 設定

最初は DHCP のみを設定し、サービスクラスとフェールオーバーオプションをスキップします。再度、設定にアクセスして、サービスクラスとポリシーのオプションを有効にします。

### 2 台のマシンの DHCP 設定

最初のマシンを DHCP メイン、2 台目のマシンを最小限のバックアップ設定（パスワードの変更、DHCP のイネーブル化、およびバックアップ ロールの選択）でバックアップとして設定し、最初のマシンにフェールオーバー ロード バランシングを設定して、オプションでフェールオーバー同期タスクをスケジュールします。

## DNS のみのシナリオ

DNS のみの構成は、1 台、2 台、または 3 台のマシンで可能です。

### 1 台のマシンの DNS 設定

最初に DNS を権威プライマリ、権威セカンダリ、またはキャッシング サーバとして設定します。

### 2 台のマシンの DNS 設定

最初のマシンを権威 DNS プライマリ、2 台目のマシンをセカンダリとして設定するか、最初のマシンをメインプライマリ、2 台目のマシンをバックアッププライマリとして設定します。

最初のマシンを権威 DNS、2 台目のマシンをキャッシング DNS として設定します。

## 3 台のマシンの DNS 設定

最初のマシンを権威 DNS メインプライマリ、2 台目のマシンをバックアッププライマリ、3 台目のマシンをセカンダリサーバとして設定します。

最初のマシンを権威 DNS プライマリ、2 台目のマシンをセカンダリ、3 台目のマシンをキャッシング DNS として設定します。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。